

# J.S.S.W NEWS

No.130

Contents

## 日本ソーシャルワーク学会通信

2021年6月10日

【発行責任者】 小山 隆

【編集責任者】 空閑 浩人

I. 巻頭言「実践にソーシャルワークの価値を反映させる」

木村 容子… 1

II. 「2021 年度日本ソーシャルワーク学会研究セミナー」報告 … 2

III. 日本ソーシャルワーク学会 2021 年度第 38 回大会のお知らせ … 4

IV. 自著紹介『子どもの貧困調査——子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』（山野則子編著、明石書店 2019 年）

山野 則子 … 6

V. 2021 年度第 1 回理事会報告 ……………… 6

編集後記……………空閑 浩人 …11

## I. 巻頭言

### 実践にソーシャルワークの価値を反映させる

日本社会事業大学／学会理事 研究推進第 1 委員会 木村 容子

昨年 2020 年 8 月にわが国における「ソーシャルワーカーの倫理綱領」が改訂された。2014 年 7 月に国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の総会・合同会議で採択された「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」（以下、「グローバル定義」）を受け、2018 年 7 月には「ソーシャルワークにおける倫理原則のグローバル声明」（以下、「倫理原則の声明」）が採択された。わが国においても、倫理綱領の改定に向けた機運・動きが高まり、社会環境の変化に伴うソーシャルワーク専門職の役割の多様化にも対応すべく、日本ソーシャルワーカー連盟において改訂作業が進められた。来月 7 月 17 日・18 日に開催される本学会大会においても、「ソーシャルワークの新たな地平 - 継承と刷新 - 」のテーマのもと、改訂された倫理綱領に関するプログラムが置かれている。ここでは、もう少し広くソーシャルワークの専門的価値にフォーカスを当て、ソーシャルワーク実践との関連性について取りあげてみたい。

まず、ソーシャルワークの専門的価値とは、ソーシャルワーカーが支援にあたって、常に持っていなければならない思想・信念や、援助の方向となる指針、願いなどを指し、ソーシャルワーク固有の目的や見方の基礎となるものである。この専門的価値には、原理、原則、倫理等が含まれ、価値>原理>原則>倫理というように、右側に行くほど具体性が増す。原理は価値を促進する行為について言明するものであり、原則は本質を具体化する態度や行動指針等を示す<sup>\*</sup>。倫理は価値の実現のためにどのように行動するかを表した具体的な行動規準や規範のことであり、倫理綱領とは専門職集団がその中心的価値観を明文化し、専門職としての行動規準や義務を示したものである。

このように、専門的価値はソーシャルワーク実践の目的や方法等々を方向づける重要なものであるが、果たして私たちソーシャルワーカーは実践のためにこれら専門的価値を正しくとらえ、自分たちのソーシャルワーク実践の拠り所として、共に働くソーシャルワーカーや他の福祉従事者間で共有して同じ方向を向き、クライアントに、地域社会に、関連領域の他職種に広く説明することがどのくらいできているであろうか。私が児童館の館長として立ち上げから関わった現場では、何もかも一からで、職員といろいろな場面で、なぜそのようにするの？とのやり取りや、児童館として、その職員として、ソーシャルワークとしてのアイデ

ンティティをもって、こういうことを大事にして活動を展開したい、ということをよく話し合った。今もさまざまな現場との関わりを持たせていただいているが、形から入る、形を追う現場従事者の話しを見聞きすることも少なくない。他には、現場従事者の姿勢を機関・施設が理解していないがために、活動の幅や質が狭められてしまうということもある。どのような場面でどのような専門的価値に基づき実践がなされるのか。日々のクライアントとのかかわりや支援にどのように反映しているのか。改訂された倫理綱領やその基になっている「グローバル定義」、「倫理原則の声明」に照らし合わせて点検してみることは、ソーシャルワーカーそれぞれにとって、また組織にとって、まさしく“伝統的なソーシャルワークの継承すべき遺産と新たな潮流への刷新”（第38回大会趣旨から）をとらえ、自分たちの実践を再形成することにつながることができよう。

※「グローバル定義」の「諸原理」も、「倫理原則声明」の「原則」も、英語では principles である。日本ソーシャルワーカー連盟による「ソーシャルワーカーの倫理綱領」では、「グローバル定義」の「諸原理 (principles)」に沿って「原理」とされている。

#### 引用／参考文献

大谷京子（2019）「ソーシャルワークの専門的価値とは」, 木村容子・小原眞知子（編）『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房

日本ソーシャルワーカー連盟（2020）「改訂『ソーシャルワーカーの倫理綱領』の見どころ ～変更したポイントから～」

日本ソーシャルワーク学校連盟（2018）「ソーシャルワークにおける倫理原則のグローバル声明（仮訳）」

## Ⅱ. 2020年度日本ソーシャルワーク学会研究セミナー報告

テーマ：「コロナ渦中のその先を見据えたソーシャルワーク — 1年間の変化と今後の展開に向けて」

日 時：2021年3月28日（日）13時～15時30分（オンライン開催・参加費無料）

#### プログラム

<挨拶・趣旨説明> 志水 幸氏（学会副会長・研究推進第2委員会委員長 北海道医療大学）

<報告> 「新型コロナウイルスとソーシャルワーク」和気純子氏（東京都立大学）

<シンポジウム>

①病院の現場から 千葉県急性期対応病院 医療ソーシャルワーカー 吉野 孝氏

②学校の現場から 江戸川学園おおたかの森専門学校 学生相談室

東京都23区スクールソーシャルワーカー 吉田万理恵氏

③福祉施設の現場から 札幌市 特別養護老人ホーム緑愛園 生活相談員 杉江里歩氏

④地域社会の現場から 石狩市社会福祉協議会 地域福祉課長 久保田 貴浩氏

<質疑応答>

<総括コメント> 小山 隆氏（学会会長・同志社大学）

### 「2020年度日本ソーシャルワーク学会研究セミナー」を終えて

江戸川学園おおたかの森専門学校 / 学会理事・研究推進第2委員会 杉野 聖子

2020年度の研究セミナーは、未だ渦中にある新型コロナウイルスの感染拡大によってソーシャルワークの現場が受けた影響とこの1年余りの間にどのようにそれを越えていこうと模索しているか、について現場報告を伺う機会として企画した。年度末というお忙しい中、3月28日（日）13時から15時30分という短

い時間ではあるが、オンライン ZOOM にて開催し、33 名の会員の方にご参加いただいた。

まず最初に、「新型コロナウイルスとソーシャルワーク」と題して和気純子先生（東京都立大学）に IASSW の作成した「COVID 19 AND SOCIAL WORK: A COLLECTION OF COUNTRY REPORT」の日本語版「新型コロナウイルスとソーシャルワーク 国別報告集」をもとに、今回のパンデミックがソーシャルワークにどのように影響を与えたのかという視点からのまとめの報告をいただいた。影響を受けている人はどの国でも社会的弱者の立場に置かれている人たちであり、パンデミックは既存の構造的な格差・差別をさらに顕在化させ、長期化することで格差や、人と人、人と社会などの分断が拡大していることが報告された。またパンデミックへの対応は災害に分類されるものの従来の災害ソーシャルワークとは違う新たな実践枠組みや方法論の確立が必要とされることなども示唆された。そのうえで「リスク・危機に対応するソーシャルワークとは」と今後の課題とソーシャルワークのミッションについて問題提起があった。

和気先生の報告を受けて、医療・学校・施設・地域の現場でソーシャルワーカーとして日々尽力されている 4 名の方々の実践報告を 20 分ずついただいた。

最初に「病院の現場から」として、千葉県急性期対応病院の医療ソーシャルワーカーである吉野孝さんより、この 1 年の間で患者の家族問題に関わるケースが増えていることと、経済的な問題がその根底にあることを感じている現状が報告された。次に、「学校の現場から」として、東京都 23 区のスクールソーシャルワーカー吉田万理恵さんより、コロナの影響で訪問支援に制約がかかる中で、専門職協働を実践していることが報告された。また 3 番目の報告は「福祉施設の現場から」として札幌市特別養護老人ホーム緑愛園の生活相談員である杉江里歩さんからこの 1 年の状況の変化、感染対策と利用者・家族の支援の両立を考えた取り組み事例をもとに支援の視点と今後の課題が報告された。最後に「地域社会の現場から」として石狩市社会福祉協議会地域福祉課長の久保田 貴浩さんから、感染拡大によってこれまで通り進めることが難しい地域福祉活動やボランティア活動を工夫しながら展開した事例が報告され、「地域住民は『つながり』を切望している」ことが改めてメッセージとして伝えられた。

内容が盛りだくさんであったため、十分な質疑応答の時間も取れず、最後の小山隆会長のコメントもゆっくりと伺い討論することもできないまま、定刻を 15 分ほどオーバーして、セミナーは終了した。企画担当としての進行のまずさを改めてお詫びする。今回のセミナーでは、日々変貌する人々の生活をサポートするソーシャルワークを模索する際に、リアルタイムで現場実践を共有させていただくことが、新しいソーシャルワークを生み出していくことにつながると実感した。

## 「シンポジウムに登壇して」

東京 23 区スクールソーシャルワーカー 吉田 万理恵

シンポジウムでは、様々な福祉現場のお話を伺う貴重な経験となりました。各現場の現状をお聞きしながら、教育現場でのソーシャルワークの特徴を再認識させていただく良い機会となりました。例えば、当区の SSW の対象は児童・生徒だけとは限らず、場合によっては家族のニーズや学校のニーズも同時に満たさなければ支援そのものが軌道に乗らないということが起きています。学校制度と福祉制度という異なる行政の間で、諸機関連携や制度につなぐというイメージよりは人間関係調整という色合いが強い現場であるということも改めて感じました。今回、経済的影響が直接あったケースを除けばすでに人間関係の調整の取れていたケースはなんとか持ちこたえた感がある一方で、長期化しているコロナの影響が潜在的にリスクを抱える家庭に今後どのようなさらなるリスクとしてあらわれるのか、学校関係者の先生方のコロナによる生徒支援の増加や業務の制限などのご負担が、SSW との連携にどのように影響してくるのかなど考えているところです。

# Ⅲ. 日本ソーシャルワーク学会 2021 年度 第 38 回大会のお知らせ

大会テーマ「ソーシャルワークの新たな地平―継承と刷新―」

## 【趣 旨】

2014 年の「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」の採択以降、2016 年には「アジア太平洋地域における展開」が、翌 2017 年には「日本における展開」が採択されている。まさに現代のソーシャルワークは、新たな地平に立っているのである。また、2018 年には新たな「グローバルソーシャルワーク倫理原則声明」が採択され、それを受け現在は 2020 年～2030 年までの「グローバルアジェンダ」への取り組みが展開されているところである。殊に昨年は、わが国でも「ソーシャルワーカーの倫理綱領」が改訂され、国際的にも新たな「ソーシャルワーク教育および訓練のためのグローバル・スタンダード」が改訂されている。この状況に鑑み、本大会では、この一連の状況の正確な理解にもとづき、伝統的なソーシャルワークの継承すべき遺産と新たな潮流への刷新、さらには日本的な展開のあり方について議論したい。

【期日】2021 年 7 月 17 日（土）～18 日（日）

オンライン形式（Zoom）によるライブ配信

【大会参加申し込み】大会参加申し込み締め切り：2021 年 7 月 9 日（金）

申し込み URL：https://38AnnualConf-JSSSW.peatix.com

【参加費】○会員・非会員：3,000 円 ○大学院生・学生：1,000 円

【大会に関するお問合せ先】日本ソーシャルワーク学会第 38 回大会事務局 jsssw@mbf.nifty.com

## 【大会プログラム】

[1 日目] 7 月 17 日（土）

10:30 開会挨拶（小山隆学会長）

10:40 基調講演「新倫理綱領の到達点と今後の課題」

保良昌徳（日本ソーシャルワーカー協会副会長・日本ソーシャルワーカー連盟倫理綱領委員長）

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～15:30 学会企画シンポジウム①

「ソーシャルワーク教育の新しいグローバル・スタンダードの可能性について検討する」

15:30～16:30 総会

### <学会企画シンポジウム①>

2020 年 11 月に、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）と国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）が定める「ソーシャルワーク教育及び養成のグローバル・スタンダード」の更新版が公開された。グローバル・スタンダードは、2004 年にオーストラリアのアデレードで開かれた合同世界会議の際に両団体の総会にて採択された。更新版の新しい枠組みは、18 ヶ月以上にわたるグローバル規模の協議の成果として、2020 年 6 月～7 月に開催された IASSW と IFSW のオンライン総会において承認された。

新しいグローバル・スタンダードに至るまで、全世界に広がる協議プロセスを通して、125 カ国、5 つの地域組織、約 400 校の大学等の意見が集約された。また、新しいヴァージョンは、2014 年に採択された

「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」と2019年に更新された「ソーシャルワークにおける倫理原則のグローバル声明」の内容を反映している。

シンポジウムでは、新しいグローバル・スタンダードの可能性について、①更新の経緯と注目のポイントを把握した上で、②国家資格者養成教育の見直しカリキュラムとの比較、③国内外のソーシャルワーク教育の課題への示唆、そして④日本の実践現場が更新版に期待できることという観点から検討する。

テーマ①「グローバル・スタンダードの更新プロセスの経緯と注目すべき新しい内容」

木村真理子（IFSW 教育諮問委員会アジア太平洋地域代表・日本女子大学名誉教授）

テーマ②「新しいグローバル・スタンダードと福祉士養成新カリキュラム見直しの比較（仮）」

空閑浩人（本学会副会長・社会福祉士養成課程教育内容等見直し作業チーム委員・同志社大学教授）

テーマ③「ソーシャルワーク教育の課題と新しいグローバル・スタンダードの示唆」

和気純子（本学会理事・IASSW 理事・日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長・東京都立大学教授）

テーマ④「新しいグローバル・スタンダードに対する日本の実践現場の期待」

中島康晴（日本ソーシャルワーカー連盟・NPO 法人「地域の絆」代表理事）

コーディネーター Virág（ヴィラグ）Viktor（ヴィクトル）（本学会理事・長崎国際大学講師）

## [2日目] 7月18日（日）

9:30～12:00 学会企画シンポジウム②

「福祉課題解決に向けた変革プログラムの発展に有効な形成的評価の方法～実践家参画型エンパワメント評価と、その基盤を支える中間支援組織の役割～」

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～15:00 自由研究発表

### <学会企画シンポジウム②>

「福祉課題解決に向けた変革プログラムの発展に有効な形成的評価の方法～実践家参画型エンパワメント評価と、その基盤を支える中間支援組織の役割～」

【報告1】「実践家参画型で進める形成的評価法の可能性～評価アプローチ法の概要と実施基盤を支える中間支援組織の機能と役割～」

大島巖（東北福祉大学）、新藤健太氏（群馬医療福祉大学）、  
贅川信幸氏（日本社会事業大学）、源由理子氏（明治大学）

【報告2】「生活困窮者自立支援相談事業に導入された実践家参画型形成的評価の成果と、その成果生成を支える中間支援組織の機能と役割」

新藤健太氏（群馬医療福祉大学）、  
池本修悟氏・池田徹氏（ユニバーサル志縁センター）、  
源由理子氏（明治大学）

【報告3】「精神障害者家族への心理教育プログラムの実装を促進するコンサルテーションのあり方～EBPプログラム実装の成果を支える中間支援組織の機能と役割」

仁科雄介氏（日本福祉教育専門学校）、  
贅川信幸氏・増田奈美氏（日本社会事業大学）、  
大島巖（東北福祉大学）

コーディネーター：大島巖（本学会副会長・東北福祉大学副学長）

## IV. 自著紹介

山野則子会員より『子どもの貧困調査——子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』（山野則子編著、明石書店 2019年）の自著紹介を頂きました。

### 「10万件の子どもや親の声を聴いてほしい！」

大阪府立大学 山野 則子

「子どもの貧困」というキーワードが社会で認識されてから、かなり時間が経ち、様々な実態を表す本が登場している。そんな中での本書の役割や特徴をあげたい。

1つは、単なる貧困の実態を表すのではなく、また単に調査報告ではなく、調査の前段階からのプロセス、地方自治体と研究者の協働、施策への展開について触れ、まさに「子どもの貧困に関する調査」について多面的に提示することであった。この歩みがあったからこそ、収集データがこのテーマで10万件という日本初のビッグなものとなり、府内自治体の中では全数把握に近い自治体も出現させることができた。より子どもや世帯の実態に即して政策を検討できる。

市区町村自治体は子どもの貧困調査が努力義務となったものの、具体的にはどのように考えてどのように実施すればいいかわからないことが多い。そういった自治体関係者をまとめて、議論を作ってきたその方法から記述している。調査実施へのハードルを下げ、子どもの最善の利益のために初めの第一歩を踏み出せる役割として機能する一助になれば有難い。そして本著には、研究者と自治体の協働のあり方、広域自治体と市区町村自治体との関係、調査して終わりではなく現実的な支援方策の提示など、調査結果だけの記述ではない調査そのものの意義を示す特徴がある。

分析内容としては、大きなポイントとして、今までは、明確に実証はされていなかった3つのキャピタルの欠如として子どもの貧困の構造を示したこと、もう1つははく奪指標について提示したこと、の2点がポイントである。もちろん、これだけのデータ数があったからこそ可能になった。また緻密に調査分析することで実態を如実に示すことができた。所得と労働、家族形態、子どもの生活、つながりなど各章において実証した。特に今まではほぼ述べられていなかった外国につながる子どもの実態も通常なら数少ないサンプル数になるところ、母集団が10万件だからこそ分析も可能となった。ご批判も含め、何が明らかになって何が明らかにならなかったのか、これらをどう生かして我々はどこに向かっていけばいいのか、など考える材料に是非していただきたい。

これらの意味から本書のキーワードは、「子どもの貧困に関する調査」であり、「子どもの貧困とは」ではない。

## V. 「2021年度第1回理事会」報告

日時：2021年5月23日（日）13時～15時30分

場所：WEB会議（ZOOM）

### <協議事項>

1. 各委員会より活動報告及び2021年度活動計画
2. 2021年度委員会構成
3. 会員の動向（前回理事会（1月24日）以降）

#### 4. 2021年度の理事会日程について

##### ○出席・欠席者一覧

役職	氏名	所属	出欠
会長	小山 隆	同志社大学	出
副会長	久保 美紀	明治学院大学	出
	志水 幸	北海道医療大学	出
	大島 巖	東北福祉大学	出
	空閑 浩人	同志社大学	出
理事	池田 雅子	北星学園大学	出
	大谷 京子	日本福祉大学	出
	木村 容子	日本社会事業大学	出
	横山登志子	札幌学院大学	出
	和気 純子	東京都立大学	委任状
	浅野 貴博	ルーテル学院大学	出
	荒井 浩道	駒澤大学	出
	岡田 まり	立命館大学	出
	佐藤 俊一	NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば	委任状
	白川 充	仙台白百合女子大学	出
	杉野 聖子	江戸川学園おおたかの森専門学校	出
	保正 友子	日本福祉大学	出
	ヴァイラークヴィクトル	長崎国際大学	出
監事	黒木 保博	長野大学	欠
	岡本 民夫	同志社大学名誉教授	欠
庶務	野村 裕美	同志社大学	出

#### 1. 各委員会より活動報告（前回1月24日理事会での報告以降分）及び2021年度活動計画

##### ○研究推進第一委員会

1. 学会誌編集委員会より、学会誌編集進捗状況の報告があった
2. 研究奨励委員会より、現在、申請募集中（2021年5月末日締切）との報告があった
3. 学会賞選考委員会より、いずれの賞も今年度は候補者なしの旨報告があり、理事会で了承された

研究推進第一委員会の2021年度活動計画について、以下の通り報告、提案があった

##### 1. 学会誌編集委員会

- ①学会誌発行に向けての作業：42号・43号を学会ホームページ上に電子ジャーナルとして発行するとともに、J-stageで公開する
- ②会員の積極的投稿を促すとともに、学会誌の質の向上を図る
- ③学会誌を通して、会員の研究成果をより広く社会に発信できるように努める
- ④投稿規程・執筆要領の継続的な検討を行う

##### 2. 研究奨励委員会

- ①会員の個人研究及び共同研究の促進のため、2021年度会員研究奨励費の申請を受け付け審査し、選考を行う

##### 3. 学会賞選考委員会

- ①2022年度学会賞の選考を行う

##### ○研究推進第二委員会

1. 2021年度大会（7月17日（土）・18日（日）オンライン開催）について、準備状況等の報告があった
2. 研究セミナー（3月28日開催）の報告があった

3. 共同研究について、以下のテーマでの取り組み状況について報告があった
  - 1) 「実践家と協働で進める効果的福祉実践プログラムモデル形成評価研究会」
  - 2) 「RSW 共同研究」(2019 年度大会の学会シンポジウム以降の全母協との共同研究)

研究推進第二委員会の 2021 年度活動計画について、以下の内容での報告、提案があった

1. 2021 年度第 38 回大会の運営について  
大会運営：拡大実行委員会（第 2 委員会+大島副会長、宮本雅央会員、山下匡将会員）
2. 2022 年度第 39 回大会開催校（青森県立保健大学）との協議について
3. 2023 年度第 40 回大会開催校の選定・調整について
4. 2021 年度研究セミナーの企画・運営について
5. 2022 年度研究セミナーの企画について
6. 2021 年度共同研究の実施について

### ○研究推進第三委員会

#### ①出版・教材開発班に関して以下の報告があった

2019 年 4 月に出版した『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック』の活用に向けて、職能 4 団体とのコラボによる研究ワークショップ開催への働き掛けを行った。2021 年 6 月に開催される日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会において、研究ワークショップを実施する予定。今後、学会主導の研究ワークショップも開催予定している

#### ②社会貢献推進班に関して以下の報告があった

- ・2020 年 11 月 8 日に鹿児島県社会福祉士会と共催開催したソーシャルワーク・コラボセミナー in かごしまの報告を、学会通信 129 号に掲載した。また資料集を学会ホームページに掲載した
- ・2021 年度「ソーシャルワーク・コラボ」の企画の検討を進めている

### ○国際委員会

2021 年度活動計画について、以下の報告があった

- ・世界的なコロナ禍における国際的状況に関する情報収集と学会員への情報提供を行う
- ・国際的なシンポやワークショップが開催されれば本学会の共催を検討したい

### ○研究倫理委員会

研究倫理委員会より、2021 年度活動計画について以下の報告があった

- ①会員に対して研究倫理にかかわる啓発に努める
- ②研究倫理指針の継続的な検討を行う
- ③研究倫理上の問題への的確な対応を図る

### ○総務委員会

総務委員会より以下の報告があった

#### ①ニュースレターの発行

第 129 号発行済（2021 年 3 月 15 日）

2021 年度は、第 130 号（6 月）、131 号（10 月）、132 号（2022 年 3 月）発行予定



②ホームページの運営管理

- ・大会、コラボ、セミナー等資料、ニュースレターのアップを可能にした（2020年度分より）
- ・2021年度も引き続き、コンテンツや内容の充実に努める

③メールマガジンの配信

- ・毎月（月初めに）配信。2021年度も引き続き配信予定

④会員拡大、学会およびソーシャルワークの魅力発信等のための学会広報動画作成について（進捗状況報告）

⑤その他庶務関係事項等

- ・学会監査（2020年度事業&決算報告）日程：6月16日（水）予定（同志社大学）

⑥学会役員選挙の実施について（2021年12月予定）

## 2. 2021年度委員会構成（\*は役員以外の委員）

2021年度の委員会構成について、以下の通り確認された

①研究推進第1委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委員：大谷京子 岡田まり 岡本民夫 木村容子 和気純子

・学会誌編集委員会 和気純子（委員長） 大谷京子 岡田まり（\*加山弾 \*梅崎薫）

・学会賞選考委員会 担当理事：木村容子

委員長（\*木村真理子） 委員：小山隆 久保美紀（\*片岡靖子 \*川島ゆり子）

・研究奨励委員会 大谷京子

②研究推進第2委員会

委員長：志水 幸（副会長）

委員：荒井浩道 池田雅子 白川充 杉野聖子 横山登志子 ヴィクトル・ヴィラーク

・年次大会企画 ・研究集会（研究セミナー）企画 ・共同研究企画

③研究推進第3委員会

委員長：大島 巖（副会長）

委員：浅野貴博 池田雅子 佐藤俊一 白川 充 保正友子 野村裕美

・出版・教材開発班：○保正友子、池田雅子 佐藤俊一 白川 充

・社会貢献推進班：浅野貴博、野村裕美、大島巖（○責任者）

④国際委員会

委員長：黒木保博

委員：浅野貴博 岡田まり ヴィクトル・ヴィラーク

⑤研究倫理委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委員：佐藤俊一（\*松倉真理子）

⑥総務委員会

委員長：空閑浩人（副会長）

委員：荒井浩道 保正友子 横山登志子 杉野聖子 野村裕美

庶務担当：野村裕美 委託業者 (株)ワールドプランニング

### 3. 会員の動向（前回理事会（1月24日）以降～5月23日）

#### 1) 入会

以下の18名の入会が承認された（順不同、敬称略）

- ・市川 和男（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士課程）
- ・二本松 直人（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程）
- ・中島 航（九州大谷短期大学）
- ・本岡 悟（医療法人社団せいゆう会神明病院）
- ・小田倉 典子（松戸市役所福祉まると相談）
- ・高橋 宏明（社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会）
- ・黄 慧娟（同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程）
- ・安藤 幸（京都大学大学院教育学研究科）
- ・中村 年男（志學館大学）
- ・久留須 直也（鹿児島女子短期大学生生活科学科）
- ・伊藤 隆博（岩手県立大学社会福祉学部）
- ・児玉 寛子（青森県立保健大学健康科学部）
- ・嘉手納 泉也（医療法人おもと会大浜第一病院）
- ・藤本 啓寛（早稲田大学大学院／日本学術振興会）
- ・森近 利寿
- ・間嶋 健（法政大学現代福祉学部）
- ・佐藤 昭洋（東北公益文化大学）
- ・贅川 信幸（日本社会事業大学社会福祉学部）

#### 2) 退会

以下の9名の方の退会が承認された。

- ・片山 徹 ・宮嶋 淳 ・本橋 利恵 ・浅野 正嗣 ・古野 愛子
- ・佃 志津子 ・圓林今日子 ・北川 博司 ・高見 宇造

### 4. 2021年度の理事会日程について

今年度の理事会日程について、以下の通り確認された

○第2回理事会（大会前理事会）日程（案）：2021年7月10日（土）18時～

（\*正副会長会議は、同日17時より予定）

○第3回理事会は、（役員選挙後の）2022年1月中旬に開催予定

---

## 編 集 後 記

---

日本ソーシャルワーク学会通信（ニュースレター）第130号をお届けします。この編集作業をしている際に、東京や大阪などで発令されている緊急事態宣言の再延長が決定されました。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たないなかで、貧困や孤立、偏見・差別や格差、排除や分断など、世の中全体の状況は、社会福祉やソーシャルワークが認め、目指す方向とは、ますます逆の方向に向かっているように思えてなりません。一人のソーシャルワーク教育、研究、そして実践者として、「言葉の力、思考の力、行動の力」を信じて、理不尽な社会のあり方に抗うことを、微力ながら辞めずにいたいと思います。

今年度の大会は、7月17日（土）・18日（日）に開催されます。本学会が企画する2つのシンポジウムが予定されています。オンラインではありますが、皆様と一緒できるのを楽しみにしています。このコロナ禍のなかで、ソーシャルワークの意義や役割、そして使命について、あらためて考えたいと思います。どうかふるってご参加ください。

同志社大学 空閑 浩人  
(学会副会長／総務委員会)

**【日本ソーシャルワーク学会事務局】**

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル 2F (株) ワールドプランニング内  
TEL : 03-5206-7431 FAX : 03-5206-7757  
E-mail : jsssw@zfhv.ftbb.net <http://www.jsssw.org>

